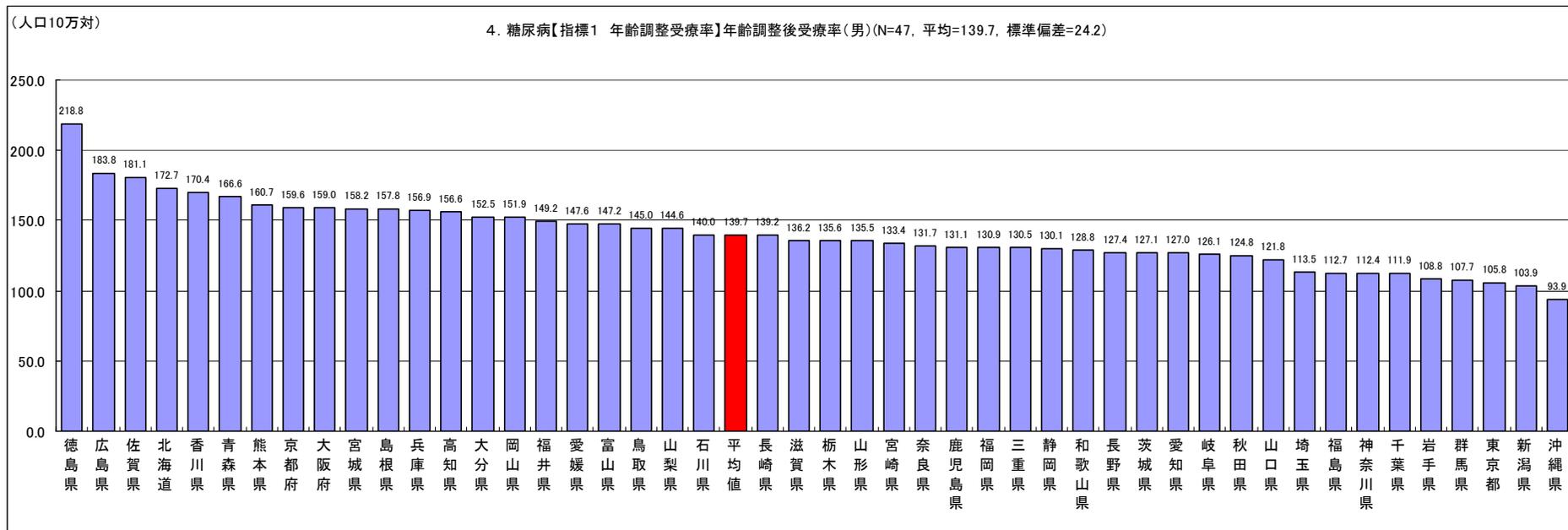


(1) 「指標」の概要

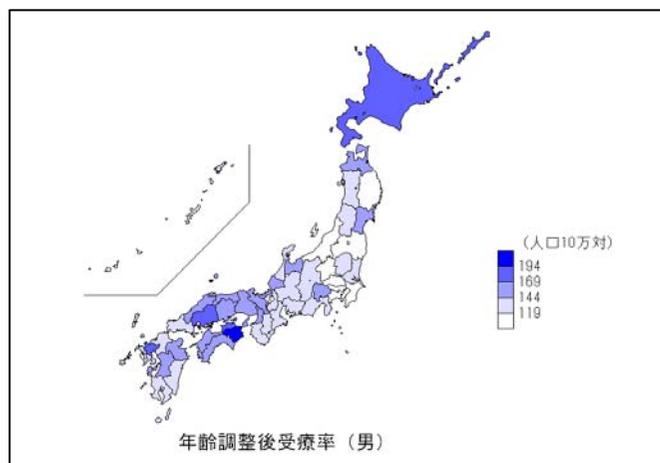
指標番号	指標名	指標の概要
1	年齢調整受療率	<p>糖尿病患者が「どのくらい多いか」を見るための指標です。</p> <p>どのくらい多いかを直接的に示す「罹患率」を全国一律に把握することが困難であるため、ここでは代替的に「受療率」を把握することとしています。</p> <p>なお、受療率は年齢構成による影響を受けるため、都道府県比較に適するように年齢調整を行います。</p>
2	基本健診受診率【脳血管疾患2と同じ】	<p>「どのくらい関心があるか」を見るための指標です。</p> <p>糖尿病予防のためには、高血糖に注意するなど生活習慣病予防対策が重要となります。一般的な基本健診では血糖値やHbA1c等を測定していることから、ここでは、糖尿病予防への関心の高さを反映する指標として、基本健診の受診率を把握します。</p> <p>多くの人が基本健診を受診することが望ましいので、本指標は高いことが望ましい指標です。</p>
3	年齢調整受療率（高血圧）【脳血管疾患4と同じ】	<p>「どのくらい健康に留意しているか」を見るための指標です。</p> <p>日常的に生活習慣の改善に取り組み、健康に留意していることは、単に高血圧や高脂血症等の生活習慣病予防、重症化予防にとどまらず、それらが進行して引き起こされる脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病などの疾病予防にもつながるといえます。</p> <p>よって、ここでは、糖尿病にならないためにどれくらい気をつけているかを測る代替指標として、「高血圧症の外来診療を受けることが高血圧の重症化予防につながる」という考え方から、外来の「年齢調整受療率（高血圧）」を把握することとします。</p>
4	医療機能情報公開率【がん5と同じ】	<p>「どこに行ったらよいか」を見るための指標です。</p> <p>病気になったときにどの病院を受診したらよいか分かるように、医療機関の情報が誰でもすぐに入手できることが求められます。ここでは、医療機関情報提供の度合いを反映した指標として、都道府県や医師会等の職能団体によってインターネット上で情報が公開されている医療機関の割合を把握します。</p> <p>本指標は高いことが望ましい指標です。</p>
5	退院患者平均在院日数	<p>「どのくらいで日常生活に戻れるか」を見るための指標です。</p> <p>本来、外来受診頻度等を把握することが望ましいのですが、受診頻度等については既存統計表では把握できないため、ここでは入院期間を反映した指標として、糖尿病患者の平均的な入院期間（日数）を把握しています。</p> <p>また、この場合、糖尿病の教育入院については除外することが望ましいのですが、患者調査のデータからは教育入院とその他の入院の区別が不可能であり、今回は教育入院も含めた全入院を把握することとしました。</p>
6	新規透析導入率	<p>「どのくらい重い合併症になるのか」を見るための指標です。</p> <p>糖尿病の合併症の一つとして腎症があります。糖尿病で高血糖状態が続き、腎臓のろ過機能が侵され、腎障害を引き起こします。糖尿病性腎症は重症化すると血液透析が必要な状態となるため、ここでは、重度の合併症の出現度合いを把握する「合併症併発率」を代替する指標として「新規透析導入率」を把握します。</p>

(2) 「指標」の結果一覧

・ 糖尿病-1 年齢調整受療率



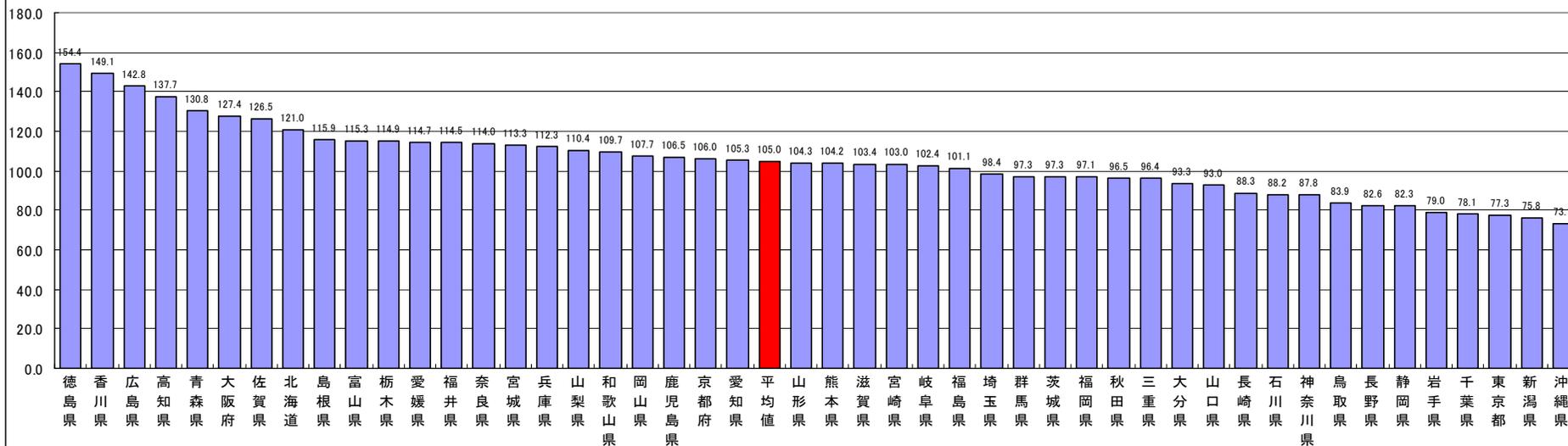
72



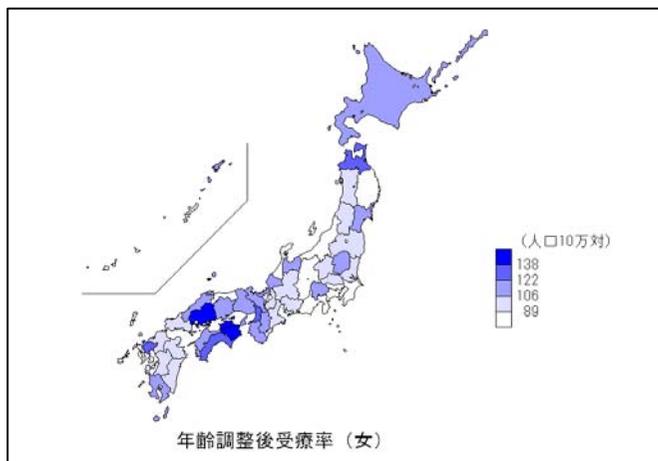
- ・ 「どのくらい多いか」を見るための指標として用いています。
- ・ 徳島県が最も高く、沖縄県が最も低い結果です。平均値は139.7、標準偏差は24.2です。
- ・ 地域的な傾向は特に見られません。

(人口10万対)

4. 糖尿病【指標1 年齢調整受療率】年齢調整後受療率(女)(N=47, 平均=105.0, 標準偏差=18.8)



73



- ・ 徳島県が最も高く、沖縄県が最も低い結果です。平均値は105.0、標準偏差は18.8です。
- ・ 地域的な傾向として、四国地方が高くなっています。